

「南海トラフ地震に関連する情報」及び
「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の当面の運用について

気象庁では、平成 29 年 9 月 26 日付報道発表（「南海トラフ地震に関連する情報」の発表について）のとおり、11 月 1 日から「南海トラフ地震に関連する情報」を発表することとしています。また、南海トラフ全域を対象として地震発生の可能性を評価するにあたって、有識者から助言いただくために「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催することとしています。

「南海トラフ地震に関連する情報」及び「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の当面の運用を以下のとおりとしますので、お知らせします。

なお、「南海トラフ地震に関連する情報」は、11 月 1 日 12 時から運用を開始します。

1. 「南海トラフ地震に関連する情報」の当面の運用

- ・「南海トラフ地震に関連する情報」の発表について（別紙 1）
- ・「南海トラフ地震に関連する情報」の情報や報道発表のイメージ（別紙 2）
 - （1）南海トラフの東側だけで大規模地震が発生した場合（西側が未破壊）
 - （2）南海トラフで M7 クラスの地震が発生した場合
 - （3）東海地域のひずみ計で有意な変化を観測した場合

2. 「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の当面の運用

- ・「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の委員（別紙 3）
- ・「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の任務
 - （1）南海トラフ地震の発生の可能性の平常時と比べた相対的な高まりについての評価・検討
 - （2）南海トラフ及びその周辺の地域における地殻活動と南海トラフ地震との関連性についての評価・検討
 - （3）南海トラフ地震に関して気象庁が行う施策に係る技術的助言
- ・必要な場合に臨時会合を開催する他、原則として月に 1 回、定例会合を開催（定例会合第 1 回は、平成 29 年 11 月 27 日（月）に開催予定）

本件に関する問合せ先：気象庁地震火山部地震予知情報課
電話：03-3212-8341（内線）4719

「南海トラフ地震に関連する情報」の発表について

気象庁は、以下の場合、「南海トラフ地震に関連する情報」を発表する。このため、南海トラフ全域を対象として地震発生の可能性を評価するにあたって、有識者から助言いただくために、「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催する。

情報名	情報発表条件
南海トラフ地震に関連する情報（臨時）	南海トラフ沿いで異常な現象 ¹ が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合 観測された現象を調査した結果、南海トラフ沿いの大規模な地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合 南海トラフ沿いの大規模な地震発生の可能性が相対的に高まった状態ではなくなったと評価された場合
南海トラフ地震に関連する情報（定例）	「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合において評価した調査結果を発表する場合

本情報の運用開始に伴い、東海地震のみに着目した情報（東海地震に関連する情報）の発表は行わない。

本情報を発表していなくても、南海トラフ沿いの大規模地震が発生することもある。

1：南海トラフ沿いでマグニチュード7以上の地震が発生した場合や東海地域に設置されたひずみ計に有意な変化を観測した場合など、気象庁が調査を開始する対象となる現象。具体的には、次のとおり。

気象庁が調査を開始する対象となる現象

想定震源域²内でマグニチュード7.0以上の地震が発生
 想定震源域²内でマグニチュード6.0以上の（或いは震度5弱以上を観測した）地震が発生し、ひずみ計³で当該地震に対応するステップ状の変化⁴以外の特異な変化を観測
 1カ所以上のひずみ計³で有意な変化を観測し、同時に他の複数の観測点でもそれに関係すると思われる変化を観測している等、ひずみ計³で南海トラフ沿いの大規模地震との関連性の検討が必要と認められる変化を観測
 その他、想定震源域²内のプレート境界の固着状況の変化を示す可能性のある現象が観測された等、南海トラフ沿いの大規模地震との関連性の検討が必要と認められる現象を観測

2：想定震源域；南海トラフ地震の想定震源域（中央防災会議、2013）。

3：ひずみ計；当面、東海地域に設置されたひずみ計を使用。

4：ステップ状の変化；地震発生時に通常観測される段差的な変化

上記は、今後の検討により見直されることがある。

(1) 南海トラフの東側だけで大規模地震が発生した場合(西側が未破壊)を例とした情報や報道発表のイメージ

本資料はあくまで一例として掲載したイメージです。実際の情報内容は、その時の状況や「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」における評価結果を踏まえた内容になります。

概ね30分後程度を想定
【情報】

最短で2時間後程度を想定
【情報】

発生した地震に関する報道発表は、これまでと同様に適切なタイミングで行う。その際、南海トラフ地震に関連する情報の最新の内容を含める

平成 年 月 日 時 分
気象庁地震火山部

南海トラフ地震に関する情報(臨時)(第1号)

本日(○日)○時○分頃に遠州灘でM8.0(速報値)の地震が発生しました。

気象庁では、今回発生した地震と南海トラフで想定されている大規模地震との関連性についての調査を開始しました。このため、×時×分から南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を開催します。

調査の結果は、「南海トラフ地震に関する情報(臨時)」でお知らせします。

平成 年 月 日 時 分
気象庁地震火山部

南海トラフ地震に関する情報(臨時)(第2号)

○見出し
本日(○日)○時○分に遠州灘で発生したM8.0の地震は、想定される南海トラフの大規模地震の想定震源域のうち、想定東海地震の震源域を含む、駿河湾から三重県南東沖にかけての領域で発生したものと考えられます。

南海トラフの大規模地震の想定震源域のうち、今回の地震の震源域とならなかった和歌山県沖から日向灘の領域では、(今回の地震から1週間程度、)大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。特に今回の地震から3日以内の可能性がより高いものと考えられます。

○本文
本日(○日)○時○分に、遠州灘でM8.0の地震が発生しました。この地震は、陸のプレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震です。

その後の地震活動の広がりから、今回の地震は、想定される南海トラフの大規模地震の想定震源域のうち、想定東海地震の震源域を含む、駿河湾から三重県南東沖にかけての領域で発生したものと考えられます。

その後の地震活動は活発で、また、地殻変動データにはM8.0の地震に伴うステップ状の変化とそれに引き続くゆっくりとした変化が観測されています。【状況に応じ、地殻変動の特徴やその評価について記載(評価ができない場合は「調査中」)】

南海トラフの大規模地震の過去の事例では、1944年の昭和東南海地震の約2年後の1946年に昭和南海地震が発生しました。また、1854年には、安政東海地震の発生から約32時間後に安政南海地震が発生しています。このように、南海トラフでは、大規模地震の発生直後から数年のうちに隣接する領域で大規模地震が発生した例があります。

また、全世界で1900年以降に発生したM8.0以上の大規模地震96事例のうち、その後隣接する領域で同程度の規模の地震(最初の地震のM±1)が発生した頻度は、最初の大規模地震の発生から3日以内に10事例、4日から7日以内に2事例ありました。

これらのことから、南海トラフの大規模地震の想定震源域のうち、今回の地震の震源域とならなかった和歌山県沖から日向灘の領域では、(今回の地震から1週間程度、)大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。特に今回の地震から3日以内の可能性がより高いものと考えられます。

和歌山県沖から日向灘の領域で大規模地震が発生した場合には、西日本を中心に、強い揺れや大津波が想定【発生した地震の状況に応じて、想定される地震や津波について言及】されます。

防災上の留意事項について言及

次回の情報発表は、 時頃を予定しています。
なお、新たな変化を観測した場合には随時発表します。

報道発表資料
平成○年○月○日○時○分
気象庁

○月○日○時○分頃の遠州灘の地震について

○地震の概要:
・発生日時 ○月○日○時○分
・マグニチュード 8.0(暫定値)
・場所及び深さ 遠州灘、深さ10km(暫定値)
・発震機構 北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型(速報値)
・観測された震度 震度7:静岡県○○市、...

○大津波警報 静岡県、伊豆諸島、...

今回の地震は、想定される南海トラフの大規模地震の想定震源域のうち、想定東海地震の震源域を含む、駿河湾から三重県南東沖にかけての領域で発生したものと考えられます。

○防災上の留意事項
たいへん高い津波が観測されています。高台に避難するなど身の安全を図ってください。特に大津波警報を発表している沿岸では甚大な被害が発生するおそれがあるため、厳重に警戒してください。津波は繰り返し襲ってきますので、警報等が解除されるまで海岸や川沿いの低地に近づかないでください。

揺れの強かった地域では、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性が高まっているおそれがありますので、今後の地震活動や降雨の状況に十分注意し、やむを得ない事情がない限り危険な場所に立ち入らないなど、身の安全を図るように心がけてください。

揺れの強かった地域では、地震発生から1週間程度、最大震度7程度の地震に注意してください。特に今後2~3日程度は、規模の大きな地震が発生することが多くあります。また、規模の大きな地震が発生した場合は、津波が発生する場合がありますので注意してください。

○南海トラフの大規模地震との関連性
「南海トラフ地震に関する情報(臨時)」を発表しています。(別紙参照)
南海トラフの大規模地震の想定震源域のうち、今回の地震の震源域とならなかった和歌山県沖から日向灘の領域では、(今回の地震から1週間程度、)大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。特に今回の地震から3日以内の可能性がより高いものと考えられます。
【大規模地震の発生可能性について、調査中の場合はその旨を記載】

地震活動の状況、緊急地震速報の発表状況に加え、「南海トラフ地震に関する情報(臨時)」の全文(防災上の留意事項を含む)や資料も掲載

(2) 南海トラフでM7クラスの地震が発生した場合を例とした情報や報道発表のイメージ

本資料はあくまで一例として掲載したイメージです。実際の情報内容は、その時の状況や「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」における評価結果を踏まえた内容になります。

概ね30分後程度を想定 【情報】

平成 年 月 日 時 分
気象庁地震火山部

南海トラフ地震に関する情報（臨時）（第1号）

本日（○日）○時○分頃に三重県南東沖でM7.3（速報値）の地震が発生しました。

気象庁では、今回発生した地震と南海トラフで想定されている大規模地震との関連性についての調査を開始しました。このため、×時×分から南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を開催します。

調査の結果は、「南海トラフ地震に関する情報（臨時）」でお知らせします。

最短で2時間後程度を想定 【情報】

平成 年 月 日 時 分
気象庁地震火山部

南海トラフ地震に関する情報（臨時）（第2号）

〇見出し

本日（○日）○時○分に三重県南東沖で発生したM7.3の地震は、想定される南海トラフの大規模地震の想定震源域の一部で発生したと考えられます。

このため、（今回の地震から1週間程度、）南海トラフの大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。

〇本文

本日（○日）○時○分に、三重県南東沖でM7.3の地震が発生しました。この地震は、陸のプレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震で、想定される南海トラフの大規模地震の想定震源域の一部で発生したと考えられます。

その後の地震活動は活発で、また、地殻変動データにはM7.3の地震に伴うステップ状の変化とそれに引き続くゆっくりとした変化が観測されています。【状況に応じ、地殻変動の特徴やその評価について記載（評価ができない場合は「調査中」）】

過去の世界の事例では、1900年以降に発生したM7.0以上の地震1,368事例のうち、最初の地震の発生から7日以内に同規模以上の地震が同じ領域で発生した事例は24事例であり、その後の発生頻度は時間とともに減少します。この事例には、平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震（M9.0）が発生した2日前に、M7クラスの地震が発生していた事例が含まれます。

このため、（今回の地震から1週間程度、）南海トラフの大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。なお、南海トラフの大規模地震には多様性があり、大規模地震が発生した場合の震源域は、今回の地震の周辺だけにとどまる場合もあれば、南海トラフ全域に及び場合も考えられます。

最大規模の地震が発生した場合、関東地方から九州地方にかけての広い範囲で強い揺れが、また、関東地方から沖縄地方にかけての太平洋沿岸で高い津波が想定されます。

防災上の留意事項について言及

次回の情報発表は、 時頃を予定しています。
なお、新たな変化を観測した場合には随時発表します。

発生した地震に関する報道発表は、これまでと同様に適切なタイミングで行う。その際、南海トラフ地震に関連する情報の最新の内容を含める

報道発表資料
平成○年○月○日○時○分
気 象 庁

○月○日○時○分頃の三重県南東沖の地震について

〇地震の概要：

- ・発生日時 ○月○日○時○分
- ・マグニチュード 7.3（暫定値）
- ・場所及び深さ 三重県南東沖、深さ10km（暫定値）
- ・発震機構 北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型（速報値）
- ・観測された震度 震度5強：三重県〇〇市、・・・

〇津波警報 三重県、和歌山県、・・・

今回の地震は、想定される南海トラフの大規模地震の想定震源域の一部で発生したと考えられます。

〇防災上の留意事項

各地で津波が観測されています。津波警報を発表している沿岸では、高台に避難するなど身の安全を図ってください。津波は繰り返し襲ってきますので、警報等が解除されるまで海岸や川沿いの低地に近づかないでください。

揺れの強かった地域では、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性が高まっているおそれがありますので、今後の地震活動や降雨の状況に十分注意してください。

揺れの強かった地域では、地震発生から1週間程度、最大震度5強程度の地震に注意してください。特に今後2～3日程度は、規模の大きな地震が発生することが多くあります。また、規模の大きな地震が発生した場合は、津波が発生する場合もありますので注意してください。

〇南海トラフの大規模地震との関連性

「南海トラフ地震に関する情報（臨時）」を発表しています。（別紙参照）
（今回の地震から1週間程度、）南海トラフの大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。

【大規模地震の発生可能性について、調査中の場合はその旨を記載】

地震活動の状況、緊急地震速報の発表状況に加え、「南海トラフ地震に関する情報（臨時）」の全文（防災上の留意事項を含む）や資料も掲載

(3) 東海地域のひずみ計で有意な変化を観測した場合を例とした情報のイメージ

本資料はあくまで一例として掲載したイメージです。実際の情報内容は、その時の状況や「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」における評価結果を踏まえた内容になります。

1点のひずみ計に有意な変化があった場合【情報】

平成 年 月 日 時 分
気象庁地震火山部

南海トラフ地震に関連する情報（臨時）(第1号)

東海地域のひずみ観測点で有意な変化を観測しており、変化が大きくなっています。

気象庁では観測されている現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうかの調査を開始しました。このため、×時×分から南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を開催します。

調査の結果は、「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」でお知らせします。

<変化を観測したひずみ観測点>
以下の観測点で有意な変化を観測しています。
観測点 XX日XX時XX分頃から

また、以下の観測点で若干の変化を観測しています。
観測点
観測点

なお、南海トラフ沿いの地域の地震活動には特段の変化は見られません。

プレート境界にすべりを推定した場合【情報】

発表した情報と同様の内容について、報道発表でもお知らせする。

平成 年 月 日 時 分
気象庁地震火山部

南海トラフ地震に関連する情報（臨時）(第2号)

○見出し
東海地域の複数のひずみ観測点で有意な変化を観測しており、変化が大きくなっています。これらの変化は、想定される南海トラフの大規模地震の震源域内でのプレート境界面のすべりに伴うものと推定され、南海トラフの大規模地震発生の可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。

○本文
東海地域の複数のひずみ観測点で有意な変化を観測しています。また、他の観測点でも若干の変化を観測しています。これらの通常とは異なる変化は次第に大きくなる傾向があります。

<変化を観測したひずみ観測点>
以下の観測点で有意な変化を観測しています。
観測点 XX日XX時XX分頃から
観測点 XX日XX時XX分頃から
観測点 XX日XX時XX分頃から

これらの変化は、南海トラフの大規模地震の想定震源域内の静岡県中部付近におけるプレート境界面でのすべりに伴うものであり、すべりの規模は 日 時の時点でMwX.Xと推定されます。今回のすべりが発生した場所では、これまで同様なすべりを観測したことはありません。

これらのことは、プレート境界の固着状況に通常と異なる変化が発生していることを示していることから、南海トラフの大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられます。

なお、大規模地震が発生した場合には、その震源域が東海地域にとどまらず、南海トラフ全域に及ぶ場合も考えられます。その場合、関東地方から九州地方にかけての広い範囲で強い揺れが、また、関東地方から沖縄地方にかけての太平洋沿岸で高い津波が想定されます。一方、今後プレート境界面でのすべりが鈍化し、大規模地震の発生に至らない場合も考えられます。

防災上の留意事項について言及

次回の情報発表は、 時頃を予定しています。
なお、新たな変化を観測した場合には随時発表します。

異常な現象()が発生

時間の経過

南海トラフ沿いでマグニチュード7以上の地震が発生した場合や東海地域に設置されたひずみ計に有意な変化を観測した場合などを想定

南海トラフ地震に関連する情報(臨時)

南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合に発表

「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」において、発生した異常な現象について評価

最短で2時間後程度を想定

南海トラフ地震に関連する情報(臨時)

南海トラフ沿いの大規模地震発生の可能性について調査中または可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合に発表

以後、随時

南海トラフ地震に関連する情報(臨時)

発生した現象及びその評価結果を発表

南海トラフ沿いの大規模地震発生の可能性が相対的に高まった状態ではなくなったと評価された場合には、その旨をお知らせし、情報の発表を終了

「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」委員名簿

会長	ひらた 平田	なおし 直	東京大学地震研究所教授
委員	かとう 加藤	てるゆき 照之	東京大学地震研究所教授
	おぼら 小原	かずしげ 一成	東京大学地震研究所教授
	おおく 大久保	ほしゅうへい 修平	東京大学地震研究所教授
	よこた 横田	たかし 崇	愛知工業大学教授
	ふるむら 古村	たかし 孝志	東京大学地震研究所教授